

健康新聞

2月10日
第2012号

発行所 日本患者同盟
〒204-0022東京都清瀬市松山2-13-12
電話 042(491)0058・FAX (491)0178
振替 00130-5-22940
新聞購読料 年額1,500円
発行責任者 吉田正朋

日患同盟・小林義雄会長死去

結核撲滅を合言葉に、患者運動に一生を捧げる



(2月12日 故 小林義雄会長葬儀)

結核撲滅へ生涯かけた

日本患者同盟会長、小林義雄さんが2月10日、入院先で肺気腫のため死去されました。87歳でした。通夜は11日午後6時、告別式は12日正午から、東久留米市のひばりが丘団地の南第二集会所で、喪主は妻のアイさんで密葬で行われました。なお各都府県患者同盟及び関係各団体の皆様には改めて『しのぶ会』をご案内させて頂きます。

小林義雄さんは昭和39年5月、日患大会で常任幹事に選出され、その後、会長に就任、以来、結核根絶を旗印に日本患者同盟を引っ張ってきました。

結核対策の推進、朝日訴訟、患者の医療や福祉、生活と権利を守る運動の先頭に立ちました。そのほか、全国結核フォーラムを開催したり、近年はストップ結核パートナーシップ日本の監事、障害者の生活と権利を守る全国連絡会の副会長を歴任しました。

また、住まいの公団ひばりが丘団地では、長きにわたって団地の自治会長を努めてきました。

そして、12日には、ひばりが丘団地自治会設立のタンポポ幼時教室の園児たちも、小林園長先生の葬列を見送りました。

全国代表者会議開催

1月20日、厚生労働省第二共済組合宿泊所茜荘にて全国代表者会議が開かれた。

代表者会議は、昨年暮れより入院していた小林義雄会長のもとへ、吉田副会長、真栄城都患総務部長、中原事務員、石崎元事務員の4人で見舞いに行ったところ、「病気療養のため会長を辞任したい。」と申し出があった。

急遽、副会長3人（東京 吉田、近畿 小丸、四国 山本）で連絡をとり、東京、大阪、京都など各県患と電話で話し合い、今後の対応を協議するために、全国代表者会議を開催した。

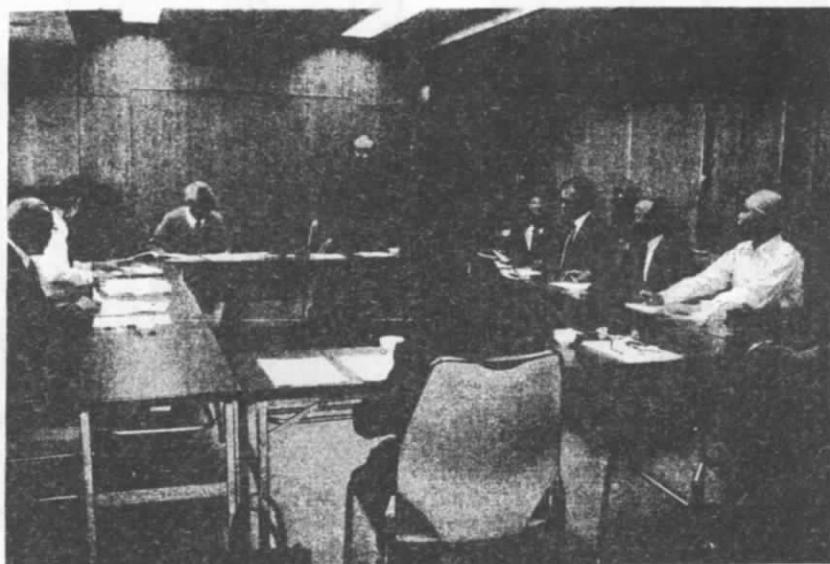
会議は日本患者同盟の今後の活動をどうするのか討議が行われ、

- ①会長代行に吉田副会長
- ②健康新聞の編集を真栄城都患総務部長等が当面担当する。

今後の運動については、6月に再度全国代表者会議を開いて結論を出すことになった。

代表者会議には吉田、山本両副会長、関東 安倍（東京）、高橋（東京）、近畿 太田（大阪）、小澤（京都）安藤（京都）の各代議員に真栄城（東京）、蝦名（東京）公文（大阪）、中原（事務局）の各氏がオブザーバーとして参加した。

（1月20日の全国代表者会議）



第四三回療養者作品展

3月3日から文化プラザかるぼーとで

「高知県患」

毎年、続いてきた療養者作品展は今年度で43回目を迎えます。

今年度の「療養者作品展」は昨年10月29日に開かれた第1回実行委員会次第のよう

に開催されることに決まった。

開催月日 平成22年3月3日から5日
開催場所 高知市九反田2-1 高知市文化プラザかるぼーと7階第1展示室

（第43回療養者作品展のポスター）



三月二十四日の

世界結核デーに向かつて

「京都府患」小澤依子
世界の総人口65億人の約三分の一が結核

朝日新聞の記事には、

「復帰以降、沖縄の女性は長寿日本一の座を守っている。05年の都道府県別の平均寿命でも86・88歳で首位だった。しかし、県は「首位陥落は時間の問題」と危機感を募らせる。85年では他の都道府県と2歳以上の差があったのが05年は鳥取県に0・31歳差まで迫られたからだ。日本一だった男性は90年に陥落、00年は26位まで落ちた。

県の説明では、男女とも85歳以上は元気で、死亡率も低い、60代以下が平均寿命を引き下げている。特に40代後半の死亡率では女性は全国一位、男性は二位。中年から壮年期の健康管理が課題だという。

一昨年4月に市区町村別平均寿命で女性が全国一になった沖縄県北中城村の田里淳子保健士は実感がわかない。

「確かに元気なお年寄りが多い。でも75歳未満の健康診断を見ると、喜んでいられない。食事は肉中心のうえ、飲酒が多くて栄養過多。車社会で運動の習慣も少ない。」と嘆く。

村がある沖縄本島中部は、米軍基地の過密地帯。ハンバーガーやステーキ店も多く、食のアメリカ化が早くから進んだ地域だからだ。

長寿は沖縄のキャッチフレーズの一つ。

沖縄県は昨年6月から、「健康沖縄21」長寿世界一復活に向けて」と題して、食生活などの改善運動を始めるようだ。提言す

るのは、沖縄の伝統的な家庭料理への回帰だ。」

また、この朝日新聞の記事の事で、沖縄県福祉保健部や商工観光部に聞いてみると、女性は日本一だが、2位との差が縮まってきたことについて、調査の結果そうならしやうがないですね。と、言ったらえらく怒られた。

(健康おきなわ21のパンフレット)

健康おきなわ21

～長寿世界一復活に向けて～

チャーガンジュー
おきなわ9か条

-  ちゃんと朝食 あぶら控えめ おいしいごはん
-  1日1回 体重測定
-  頑張りすぎず適度な運動
今より10分(1000歩)多く歩こう!

長寿というのは、沖縄県のキャッチフレーズの一つで、このブランドが崩壊すると主要産業の観光にも影響を及ぼしかねないとのことらしい。長寿の島ということ、やってくる観光客もかなり多いのだそう。特に、寒い季節は北海道や東北地方から一月とか、2、3ヶ月も長期滞在する年配の観光客がやってくるのだと言う。だから、絶対に2位以下にならなければいけないのだと言われた。

さらに、仲井間・沖縄県知事が就任してから、十年後の観光客・1千万人誘致を打ち出した。現在、5百数十万人なので、ほぼ倍増となる。現在、県内就業人口の4分の1が観光産業に関わって生計をたてている。十年後には県内の半分は観光産業で生きていこうということになる。

よって、沖縄県の「長寿・日本一」復活は、沖縄県民が生きていくための悲願ということにほかならない。

(仮称)沖縄県患者障害者連絡協議会が旗を振ることによって、沖縄県の長寿・日本一復活が成し遂げられれば、沖縄県をモデルに全国で健康推進運動の輪を広げることができるかも知れない。そうすると、我が国は健保財政黒字国家となり、世界初の健康国家となるのも夢ではないと思う。

(次号に続く)

会員の健康新聞購読料は会費に含まれています。